

水稻糯新品種「福島糯8号」の育成

福島県農業総合センター 作物園芸部品種開発科

部門名 水稻 - 水稻 - 品種 - 育種・選抜

担当者 吉田直史・大寺真史・佐藤博志・齋藤真一・佐藤弘一・手代木昌宏・齋藤弘文・半沢伸治

新技術の解説

1 要旨

県内の中山間地では、主に「ヒメノモチ」が作付されているが、本品種は、耐冷性が弱く穂発芽しやすいことから収量、品質が不安定である。そこで、耐冷性が強く穂発芽しにくい中山間地向けの「福島糯8号」を育成した。主な特性は以下のとおりである。

- (1) 出穂期は「ヒメノモチ」よりも2日程度早い中生の早に属し、籾には稀に短芒を生じ、ふ先色は“褐”である(表1)。
- (2) 障害型耐冷性は「ヒメノモチ」よりも3ランク強く“極強”、穂発芽性は「ヒメノモチ」よりも3ランク優り“やや難”である(表1)。
- (3) いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia, Pik*”を持つと推定され、圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちとも「ヒメノモチ」と同等の“強”である(表1)。
- (4) 収量性、玄米品質は「ヒメノモチ」並である(表1)。
- (5) 餅にした時の食味・食感は、「ヒメノモチ」に比べ硬く伸びが弱い傾向にあるが、総合値では「ヒメノモチ」並である(図1)。
- (6) 「ヒメノモチ」に比べて蒸し上がりや餅の硬化が早く、作業性に優れるため、餅加工に適する(図2、図3)。

2 期待される効果

- (1) 耐冷性や穂発芽性の点で既存の品種より優位であり、中山間地の糯品種の収量、品質の安定化が期待できる。
- (2) 加工適性が高い「福島糯8号」を奨励品種に採用することで、地域特産品開発等による地域の生産拡大に向けた取り組みを支援し、地域活性化に貢献することができる。

3 適用範囲

阿武隈山間等中山間地域(標高400～600m)

4 普及上の留意点

- (1) 耐倒伏性が「ヒメノモチ」並なので、多肥栽培を避ける。
- (2) 籾数を確保しやすい反面、青未熟粒により品質が低下する場合があるので、多肥栽培は避け適期刈取りに努める。

具体的データ等

表1 「福島糯8号」特性一覧

系統名	福島糯8号	組合せ	ふ系172号 / 奥羽糯347号
特性	長所 1、障害型耐冷性が極強である 2、穂発芽性がやや難である 3、餅の硬化速度が早く切り餅等の加工に適する		短所 1、耐倒伏性がやや弱である 2、青未熟粒の発生により品質が低下する場合がある
調査地	福島県農業総合センター (旧農業試験場冷害試験地・現地)		
調査年次	2000年～2003年		
系統名・品種名	福島糯8号		ヒメノモチ
早晩性	中生早		中生早
草型	穂重型		偏穂数型
出穂期(月日)	8.5		8.7
成熟期(月日)	9.20		9.22
稈長(cm)	78.6		84.4
穂長(cm)	16.6		16.7
穂数(本/m ²)	517		510
倒伏(0～5)	0.3		0.6
芒の多少・長短	稀・短		稀・極短
穎色	黄白		黄白
ふ先色	褐		白
粒着密度	やや密		やや密
脱粒性	難		難
耐倒伏性	やや弱		やや弱
穂発芽性	やや難		易
障害型耐冷性	極強		中
耐病性		<i>Pia, Pik</i>	<i>Pik</i>
いもち遺伝子型		強	強
葉いもち		強	強
穂いもち		強	強
収量(kg/a)	67.3		63.1
対標準比(%)	107		100
玄米千粒重(g)	21		20.8
玄米の大小	やや小		やや小
玄米の形状	半円		半円
品質	上下		上下

収量、千粒重: 1.8mmでふるい水分15%換算
品質: 玄米の外観観察により1～9で判定した。

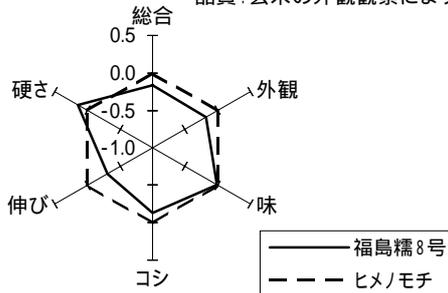


図1 福島糯8号の食味特性(2001～2004年)

(ヒメノモチを標準として食味官能試験を実施し、-3～+3で評価、11回の平均値)

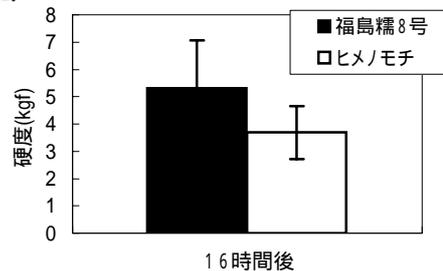


図2 福島糯8号の餅硬化特性(2000～2003年の平均値)

(餅つき後成形し5の冷蔵庫に保管し、16時間後に果実硬度計を用い、無作為に2反復測定)

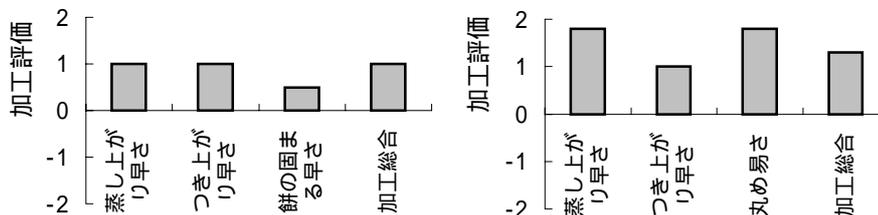


図3 福島糯8号の加工試験結果(2008年)

注 ヒメノモチを対照とし、-2～+2(-2:不良、0:並、+2:良)で評価 飯館村産の糯米を地元の餅加工グループにおいて評価

その他

1 執筆者

吉田直史

2 主な参考文献・資料

(1) 平成10年度～15年度福島県農業試験場試験成績概要、平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要